

2016年9月23日

平成28年度9月学位授与式学長告辞

九州工業大学長 尾家祐二

本日ここに博士前期課程および後期課程の学位授与式を挙げるにあたり、めでたくこの佳き日を迎えられました皆様に心からお祝いを申し上げます。また、この日まで皆様を暖かく見守り御支援されました御家族の皆様、並びに主指導教授の方々のお喜びもひとしおのことと拝察申し上げます。

さて、最近の大きな出来事として、英国がEU離脱の選択を行ったことは、まだ記憶に新しいと思います。国の方向性を決定づけ、大変大きな影響を与える選択であったと思います。余りにも大きな問題ですので、今、その良し悪しを論じることはできません。この選択が、多くの人々にとって、明るい未来を切り拓くきっかけを作る選択であることを祈りたいと思います。

皆さんも、小さな選択から、人生を左右する大きな選択まで、様々な選択を行ってきたと思いますし、これからも多くの選択を行うことでしょう。ここで、その選択について、一緒に考えてみましょう。

まず、皆さんは、九州工業大学を選び、学び、そして学位を取得されました。この選択が、皆さん方にとって、よい選択であったことと信じていますし、今後においても、その選択が皆さんの人生により影響を与えることを祈っています。私たちは、何を食べるか、どの本を買うか、どの服を着るか、大学で、何を学ぶか、等等の日々の小さな選択から、大学の選択、職業の選択等人生に大きな影響を与える選択まで、様々な選択を行っています。米国コロンビア大学ビジネススクールのシーナ・アイエンガー (Sheena Iyengar) 教授による「選択の科学 (The art of choosing)」では、選択に関し、様々な視点から調査、考察されており、興味深い話が数多く紹介されています。

皆さんは、九州工業大学をどのような思いで選択されましたでしょうか？選択する際に、大事なことは何でしょうか？選択するとは、そもそもどんなことでしょうか？先ほどの本によれば、「選択するためには、まず、『自分の力で変えられる』という認識を持たなくてはならない」と言っています。まず、「変えられる」と認識することはとても重要で、力を与えます。そして、選択することは、「自分自身や、自分の置かれた環境を、自分の力で変える能力」であると述べています。皆さん達も、本学を選択されたことによって、自分の環境を自分

の力で変えることができたのではないのでしょうか。また、一方で、自由な選択の継続によって、意識も変化することが紹介されています。それは、些細な選択の連続であっても、それを実施することを続けることによって、「『自分で環境をコントロールしている』という意識を、意外なほど高めることができる」と報告しています。つまり、自由に選択を行えるという状況は、自分の環境に、主体的に関わっているという認識を育むようです。

次に、「自分の力で変えられる」という認識について、見直してみましょう。この見方は、前向きな見方、道を拓き、何かを築くために大切な考え方です。実際には、困難な選択を迫られることがあった場合、決して、自信をもって選択を行える時ばかりとは限りません。「自分の力で変えられる」とは思い続けても、選択に必要な多くの情報を得ることができるとは限りません。しかも、将来何が起きるかを知ることができませんし、それらが選択の結果にどのような影響を与えるかもわかりません。したがって、不安な思い、否定的な考え方、悲観的な考え方になることも、十分あり得ることでしょう。マット・リドレー (Matt Ridley) は、その著「繁栄: 明日を切り拓くための人類 10 万年史 (The Rational Optimist: How Prosperity Evolves)」の中で、過去の歴史から学び、今後もさらに人類が発展するために必要な見方を示しています。すなわち、原著の表題で用いられている「合理的な楽観主義者」の視点です。世界的な状況に目を転じて、環境破壊、地下資源の枯渇、人口爆発、テロ、戦争など、悲観的になる理由はたくさんあります。一方で、人類はこれまで、多くの課題に直面しつつも、それらを解決し、よりよい生活を営むことができるように、様々な知恵を生み出してきました。これまで、「分業」「専門化」と「交換」「共有」によって、集団的な知性が形成され、そのことによって繁栄が続いてきましたし、今後も続いていくであろうと述べています。そこでは、様々な物、専門的知識、サービス等が交換され、様々なイノベーションも起きたでしょうし、今後もさらに起きていくことでしょう。私達も、科学技術の発展に貢献することによって、人類の文化の進化に貢献することができます。マット・リドレーは、その本の最後で「あえて、楽観主義でいようではないか」と呼びかけています。「自分の力で変えられる」という考え方もまさに楽観的な考え方です。

ビル・ゲイツ (Bill Gates) もスタンフォード大学の 2014 年の卒業式における講演で、楽観主義こそが彼を突き動かした信念であったと、述べています。さらに、例えば、貧困問題等に対処する際に、関連する人達との間での共感 (empathy) が必要である指摘しています。 (<http://news.stanford.edu/news/2014/june/gates-commencement-remarks-061514.html>) つまり、共感を伴った楽観主義 (optimism with empathy) を勧めています。これは、先ほどの本の中の言葉を用いれば、気持ちの「交換」、「共有」を伴った楽観主義です。

皆さんも、今後、困難な問題に直面し、困難な選択を行わなければならないこともあるでしょう。解決するための困難さに目を奪われたら、それを解決できた後に実現できる明るい姿を想像することが大事だと思います。私は、選択する際には、多少困難であっても自分が力を注ぎ続けていきたい方を選びたいと思います。解決できた後の姿を共有、共感できる人がいればさらに嬉しいことです。

これまで、楽観主義の魅力を述べていますが、何事も、一つの思いだけに偏ってもよくはありません。相反すること、もしくは、互いに補うことと一緒に、心にとどめる必要があります。悲観的視点にも配慮を行うなかで、楽観的視点を強く持つ等、心に許容力が必要です。例えば、自分を信じる (believe in myself) ことは大事ですが、それと同時に、謙虚さ (honesty) を持つことが、同様に大切です (河合隼雄著「ナバホの旅 たましいの風景」)。自信のない人を、信頼することはできませんが、謙虚さがなくなり傲慢になっても、信頼できなくなります。それらのバランスが大事になります。つまり、楽観的視点で行動しているが、悲観的な視点も理解している、というのは大切です。

最後に、いま、本学が推進している「教育研究のインタラクティブ化」とは、まさに、様々な対話、交わり等の「交換」「共有」を行い、そのことにより生じる相互作用を通じて、学びと研究を進化させることです。多様な対話、交わりを引き起こす学習環境、学習プログラムの整備及び研究活動を推進しています。卒業後も、是非、九州工業大学で得られた人的ネットワークを最大限活用し、本学との間で相互作用を生じさせてください。人的ネットワーク、信頼の絆などソフト資産こそ、今後、とても大事な財産になると思います。九州工業大学は、いつでも皆さんを歓迎します。

変化を起こすのは、皆さんのような若い方です。是非とも既成の分野にとらわれることなく、多様な分野の国内外の研究者、産業界の方々等との対話の機会を大事にし、貪欲に学び続け、「自らの力で変える」という思いで選択を行い、その後はよい選択になるよう努力を続けて頂きたいと思います。

最後となりましたが、九州工業大学に縁 (えにし) があつた方々の栄えある門出を心から祝福申し上げ、併せて御健勝と御多幸を祈念申し上げまして、告辞と致します。本日は、誠におめでとうございます。